

Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第8号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 8 P.84-P.84
Issue Date	2012-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/25064
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

編集後記

『MHB研究』第8号は<招待論文>として田浦秀幸先生の「新国際学校における英語圏からの帰国生徒のライティング力保持に関する一考察」を掲載しました。これは2011年8月に開催された「2011年度研究大会」での招待発表に加筆していただいたものです。海外（英語圏）から帰国した生徒の英語力の保持を扱っており、いわゆる加算的バイリンガリズムの事例となるものです。

応募論文は8本ありました。その中から優れたもの3本を選び、論文の内容や性格を勘案し2本を<研究論文>、1本を<実践報告>として掲載をしています。今回もこれまでと同様、複数の査読委員が丁寧に読み、議論を尽くして採用を決定しました。採択された論文だけでなく不採択となった論文についても今後の研究に役立てていただけるよう建設的な講評を加えてお返ししました。査読に関わって下さった方々には貴重な時間と労力を惜しまず対応をしていただいたことお礼を申し上げます。

さて巻頭言で中島和子先生も述べておられますが、今号から大きく変更されたことがあります。ISSNを取得したことと掲載論文が一定の時間をおいたのちにはありますが、CiNiiでの検索入手が可能となったことです。ISSNの取得により定期刊行物として「一人前」として扱われることとなりました。今号まで『MHB研究』の発刊に携わって下さった方々の努力が報われたこととなります。紙媒体の紀要を発行することは経費の面でも苦勞が多いことですが、その利便性はIT環境が進んだとしても決して軽んじられるものではなく、将来のオンラインジャーナル化の可能性を見据えながらもしばらくは継続する予定です。また2012年4月をもって事務局が移動となります。研究会発足時から今日まで事務局を担当して下さった桜美林大学の佐々木倫子先生、本当に長きにわたりご苦勞さまでした。

MHB研究会は2013年には10周年を迎えます。MHB研究会が当初から掲げていた研究領域は今日ではさらに大きな意味をもつものとなっています。今後もしっかりと研究の基盤となるよう本紀要もさらに高みを目指していきたいと思っております。第7号と8号の編集を担当させていただいた友沢は今号で役目を終え、第9号は今号に引き続き原瑞穂先生、そして新たに朱桂榮先生がご担当下さいます。次代を担う若手の理事お二人に引き継ぐことができることを大きな喜びとするとともに、編集作業等で多大なご協力をいただいた津田印刷様には毎回のことですが感謝を申し上げます。

MHB研究会企画担当理事 編集委員 友沢 昭江

母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究 第8号

2012年3月31日 発行©

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学 言語教育研究所内

Tel. 042-797-2016 Fax. 042-797-1887

URL. <http://www.mhb.jp> (ホームページ)

印刷所：有限会社 津田印刷 〒606-0002 京都市左京区岩倉中大鷲町14